

この物語の主人公である下毛野古麻呂が活躍した西暦650〜700年代の初めころは、約400年間続いた古墳時代から新たに大きく国のしくみが変化した時代でした。

この変化は、日本の長い歴史の中で、江戸時代から明治時代への変化とよく比べられます。幕末から明治時代に活躍した新選組の近藤勇や土方歳三、西郷隆盛、大久保利通、伊藤博文たちのことは皆さんよくご存じのことと思います。この時、彼らのように歴史に名前を残した多くの人たちは、関東地方や現在の鹿児島県、山口県など地方出身の人たちでした。下毛野古麻呂も彼ら幕末のヒーローたちと同じく、地方出身の一人でした。

明治時代に比べ古麻呂が活躍した時代は、東北・関東や九州は、都が置かれた近畿地方とはさらにかけ離れた、未発達之地と考えられていました。

そのような揺れ動く時代の中で、都から遠く離れた東国出身の古麻呂は、強い意思をもってさまざまな知識を学び、盟友たちとの固く結ばれた友情に助けられながら、多くの活躍を成し遂げた本県で初の歴史に名を遺した実在の人物です。

この物語を読んだ皆さんも、100年後、1000年後に下野市や栃木県、さらに日本を代表するような活躍をした古麻呂のような歴史上の人物になれるようがんばってください。

## ◆読者のみなさんへ



660年 唐軍 → 新羅軍 663年 唐軍 → 百濟復興軍

▲ おもな朝鮮式山城 ○ 齊明天皇の行宮 (遠征時の一時的な宮城)



- 660年 百濟が唐・新羅軍に滅ぼされる
- 663年 白村江の戦い
- 664年 筑紫に水城を築く  
対馬・壹岐・筑紫に防人・烽を設置
- 665年 筑紫に大野城・基肄城を築く
- 667年 近江大津宮に遷都
- 676年 新羅が朝鮮半島を統一

白村江の戦い

## 古麻呂が活躍した時代

今から約1600年前、近畿地方を中心に成立したヤマト王権と呼ばれる勢力が、その勢力の大きさを古墳の規模で示すように、現在の大阪府や奈良県に巨大な前方後円墳を造りました。この勢力下に入った地方の豪族たちは、中央と同じかたちの前方後円墳を造ることが認められました。

6世紀の中頃、緊張する東アジア情勢の中で百済国の聖

明王から仏像と経典が送られてきます。国として外來の神を認めるかどうかで戦いが起こり、仏教を崇拝する王家や豪族たちが勝利し、彼らは巨大な古墳の代わりに寺院を建立しました。また、7世紀の中ごろには大化の改新(乙巳の変)などの政変により、政治の仕組みが大きく変化しました。さらに663年、同盟国である百済を助け



# 古代最大の内乱「壬申の乱」

- 971年
- 10.20 大海人皇子、近江大津宮から吉野宮へ入る
  - 12.3 天智天皇が大津宮で亡くなる
- 672年
- 6.24 大海人皇子、東国に向けて進発
  - 6.26 大海人皇子軍、不破関を閉鎖
  - 6.27 大海人皇子、野上行宮に入る
  - 6.29 大海人皇子方の大伴吹負ら、大和で挙兵
  - 7.4 大和での戦闘が本格化
  - 7.5 倉歴の戦い近江朝廷軍勝利
  - 7.22 瀬田の戦い大海人皇子軍勝利
  - 7.23 大友皇子が山前で自害



るために派兵し戦った白村江では大敗します。

中大兄皇子(天智天皇)と藤原鎌足らは大敗の原因を分析し、勝利国である唐の政治制度を参考に、新たな国づくりを始めます。

672年、天智天皇の後継問題から古代最大の内乱である壬申の乱がおき、勝者大海人皇子は天武天皇として即位します。政治の舞台として飛鳥浄御原宮を造り、この飛鳥の地で新たな政治制度である律令体制の確立を目指します。

そのひとつとして、中央官僚制や「八色の姓」制が導入されます。これにより地方では、それまで地域支配を認められていた豪族の多くが勢力を失いました。この時、下毛野一族は全国52の氏族と共に「朝臣」の姓が与えられ、それまでの下毛野の地に隣接する那須も含め、新たな下毛野(後の律令制度導入後の下野国域)を治めることが認められます。

当時、朝鮮半島諸国の内乱から逃れるように多くの人が九州や近畿地方に移り住

